



本書は、英語による Crédit Agricole SA 2015 年度第 1 四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2015 年 5 月 6 日 モンレージュ

2015 年度第 1 四半期業績結果

活動の拡大と有利な市況にけん引された好業績

- － 全ての事業部門での活動拡大
- － 同一の規制条件で抑制されたコスト
- － リスク関連費用の一層の低減
- － 確認された堅固な財務構造

2015 年度第 1 四半期のクレディ・アグリコル・グループ*

収益: 80 億 3,500 万ユーロ (前年同期比+3.1%)

税引き前利益: 21 億 3,100 万ユーロ (前年同期比+8.0%)

純利益グループ帰属分: 12 億 2,800 万ユーロ (前年同期比-1.9%)

(SRF による-2 億 2,200 万ユーロ及び IFRIC 21 の影響による-1 億 9,400 万ユーロを含む)

完全適用後 CET 1 レシオ: 13.0% (前年同期比+130 ベーシス・ポイント)

* クレディ・アグリコル S.A.と地域銀行の 100%。

2015 年度第 1 四半期のクレディ・アグリコル S.A.

収益: 43 億 5,900 万ユーロ (前年同期比+7.5%)

営業総利益: 12 億 600 万ユーロ (前年同期比+4.4%)

リスク関連費用: -4 億 7,700 万ユーロ (前年同期比-19.2%)

純利益グループ帰属分: 7 億 8,400 万ユーロ (前年同期比+2.6%)

(SRF による-1 億 8,200 万ユーロ及び IFRIC 21 の影響による-1 億 3,000 万ユーロを含む)

完全適用後 CET 1 レシオ: 10.2% (前年同期比+120 ベーシス・ポイント)

クレディ・アグリコル・グループ

クレディ・アグリコル・グループの 2015 年度第 1 四半期の純利益グループ帰属分は、2014 年度第 1 四半期(修正再表示後)と比べて 1.9%減の 12 億 2,800 万ユーロとなりました。比較に際しては、当年度の数字に関して、純利益グループ帰属分に単一破綻処理基金(SRF)の初回拠出額の-2 億 2,200 万ユーロが含まれていることを考慮する必要があります。

この要因を除き、また、IFRIC 21 の解釈の適用前では(これにより 2014 年度の比較可能データを修正再表示)、クレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は 16 億 4,400 万ユーロとなりました。これは、2014 年度第 1 四半期の表示数字の 14 億 2,000 万ユーロと比べて 15.8%の増加です。

クレディ・アグリコル S.A.の会長ジャン・マリ・サンデルにとって、こうした業績は、クレディ・アグリコルの健全性を確認するものであり、また、その中期利益目標に沿ったものです。

クレディ・アグリコル S.A.の CEO ジャン・ポール・シフレにとって、このような好調な業績は、全ての事業部門の力強い成長にけん引されたものです。この業績は、特に大半の事業部門でのリスク関連費用の継続的な低減、効率的なコスト抑制、及び当グループの財務構造の堅固さと合わせて、2014 年度の趨勢を裏付けるものです。

地域銀行は、低迷を続ける経済環境と不利な金利環境にもかかわらず、引き続き堅調な実績を達成しました。合計顧客預かり資産は、2014 年 3 月末と比べて 3.2%増加し、ローン残高は、同期間に 1.0%増加しました。2015 年度第 1 四半期の純利益グループ帰属分に対する地域銀行の寄与分(IFRS に従って 100%)は、7 億 9,000 万ユーロに達しました。2014 年度第 1 四半期との差は、地域銀行の SRF 拠出額である 5,200 万ユーロによるものです。

ソルベンシーについては、クレディ・アグリコル・グループのバーゼル 3 完全適用後 CET 1 レシオは、2014 年 3 月末現在の試算値 11.7%に対して 2015 年 3 月末現在では 13.0%でした。

クレディ・アグリコル S.A.

2015 年度第 1 四半期の財務諸表を検討するために、ジャン・マリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2015 年 5 月 5 日に開かれました。

純利益グループ帰属分は、2014 年度第 1 四半期の純利益グループ帰属分(修正再表示後)と比べて 2.6%増の 7 億 8,400 万ユーロとなりました。参考までに、2014 年度まで施行されていた規則に基づく(つまり、IFRIC 21 の適用前及び SRF への拠出の影響を除く)、純利益グループ帰属分は 10 億 9,600 万ユーロとなります。これは、2014 年度第 1 四半期の公表数字の 8 億 6,800 万ユーロに対して 26.3%の増加となります。

この好調な業績は、収益を前年同期比で 7.5%増やした事業活動の拡大を主な要因としています。すなわち、LCL のローン残高が 2.9%増、カリパルマの住宅ローン残高が 4.9%増、アムンディの資金流入額(純額)が 240 億ユーロ、貯蓄/退職保険及び死亡・高度障害保険の資金流入額(純額)が 23 億ユーロ、プライベート・バンキングの資金流入額(純額)が 15 億ユーロ、CACEIS のカस्टディー資産・管理資産が 10%超の増加、新規消費者金融オリジネーションがおおよそ 10%増、更に資本市場及び投資

銀行部門がほぼ 30%¹の収益増を達成し、全ての事業部門が貢献しました。

この業績は、リスク関連費用の継続的な低減によっても支えられ、リスク関連費用は 2014 年度第 1 四半期比で 14 ベーシス・ポイント改善し、年換算では残高の 46 ベーシス・ポイントまで低下しました。リスク関連費用は、大半の事業部門で低下しました。(LCL:2014 年度第 1 四半期の 30 ベーシス・ポイントに対して 20 ベーシス・ポイント、国際リテール・バンキング:同 141 ベーシス・ポイントに対して 135 ベーシス・ポイント、消費者金融:同 293 ベーシス・ポイントに対して 212 ベーシス・ポイント。これは主に、アゴス・デュカトでの継続的な低減によるもので、2014 年度第 1 四半期比で 36%減の 1 億 400 万ユーロでした。)

加えて、事業活動の拡大と規制変更によるマイナス影響という環境下で、営業費用が抑制されました。単一破綻処理基金(SRF)の初回拠出分だけで、営業費用の増加分の 6%を占めました。通貨、規制、及び投資計画又は変革計画による影響を除くと、営業費用は 2014 年度第 1 四半期比で 1.2%増加しました。

2015 年 3 月末現在、クレディ・アグリコル S.A.の資本構造は更に強固になり、完全適用後 CET 1 レシオは、2014 年 3 月末現在で記録した 9.0%レシオから 120 ベーシス・ポイント改善して 10.2%となりました。2014 年度中に急上昇したレシオは、2014 年 12 月末以降、2015 年 3 月末現在でわずかに低下しました(20 ベーシス・ポイント)。リスク・ウェイト資産の伸びの 3 分の 1 は、米ドル高によるものであり、これはレシオの 16 ベーシス・ポイントの低下に相当します。但し、他の 8 ベーシス・ポイントは、IFRIC 21 の季節的影響に関係するものです(SRF を含む)。それ以外は、リスク・ウェイト資産の伸びは収益の力強い趨勢に沿ったものでした。

クレディ・アグリコル・グループの流動性ポジションも一層強化されました。2015 年 3 月末現在、当グループのバランスシート上の現金は 1 兆 420 億ユーロに達し、長期の利用可能資金に対する長期の資金調達超過額は、2014 年 3 月末現在の 730 億ユーロに対して 1,040 億ユーロとなりました。流動性準備金は、売買証券ポートフォリオに関連するキャピタルゲインとヘアーカットを含めると 2,480 億ユーロに達し、総短期債務を 2 倍以上カバーしました(2014 年 3 月末現在の 164%に対して 217%)。

当グループとクレディ・アグリコル S.A.は共に、2015 年 3 月末現在の LCR レシオが 110%を上回りました。

クレディ・アグリコル S.A.は 2015 年 3 月末現在、その 100 億ユーロの中・長期債(シニア債と劣後債)市場発行プログラムの 54%を完了しました(支店ネットワークを除く)。クレディ・アグリコル S.A.は、シニア債によって 18 億ユーロ相当額を調達し、また、20 億ユーロの 12 年債と 15 億米ドルの 10 年債から成る Tier 2 の発行を実施しました。

全体では、クレディ・アグリコル・グループの主な発行体は、2015 年度第 1 四半期にシニア債と劣後債によって市場及び支店ネットワークで総額 107 億ユーロを調達しました。

¹ DVA running の影響に関して、恒常為替レートで修正再表示。

社会的・環境的責任

フランス経済にとって重要な金融機関として、クレディ・アグリコルは、温室効果ガスの排出が少ない経済の創出に資するようエネルギー転換に対する自らの取り組みを再確認しています。クレディ・アグリコルは 2010 年以降、フランス国内の再生可能エネルギー・プロジェクトにとって重要な金融機関としての地位を着実に築いています。クレディ・アグリコル・リーシング&ファクタリング(CAL&F)及びその子会社でこの分野に力を入れている Unifergie は、2014 年末現在で既に総額 23 億ユーロのプロジェクトに融資しています。クレディ・アグリコル CIB は、グリーンボンドでは世界第 1 位であり、14%の市場シェアを獲得しています。アムンディは 2014 年 9 月、世界規模の新たな革新的商品として一連の低炭素インデックス・トラッカーを投資家向けに発売しました。全体では、既に 25 億ユーロがこれらのファンドに投資されています。更に、機関投資家及びリテール投資家を通じて再生可能エネルギーと省エネに融資するため、EDF と共同でポートフォリオ運用会社の設立が進められています。目標は 15 億ユーロの調達です。2014 年 12 月末現在で 710 億ユーロの資産を運用するフランス国内の主要 SRI 資産運用会社であるアムンディも、環境をテーマとしたファンドである Amundi Valeurs Durables を設立し、1 億 2,100 万ユーロを調達しました。機関投資家としてクレディ・アグリコル・アシュアランスは、アムンディ及びクレディ・アグリコル・イモビリエの支援を得て、新たなエネルギー形態やエネルギー効率に優れた建物などエネルギー転換のカギとなる資産への投資に力を入れています。

決算スケジュール

2015 年 5 月 20 日	年次株主総会（リール）
2015 年 5 月 28 日	配当落ち日
2015 年 6 月 23 日	配当支払日
2015 年 8 月 4 日	2015 年度第 2 四半期決算発表
2015 年 11 月 6 日	2015 年度第 3 四半期決算発表

ソルベンシーの要素を除く本文書全体で、2014 年度のデータは、IFRIC 21 の解釈適用後の税務会計方法の変更により修正再表示されています。

Disclaimer

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10). This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections. Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market values and asset depreciations. Readers must take all of these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures presented for the three-month period ending 31 March 2015 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date. This financial information does not constitute a set of financial statements for an interim period as defined by IAS 34 "Interim Financial Reporting" and it has not been audited.

クレディ・アグリコル S.A.連結決算

(in millions of euros)	Q1-15	Q1-14 restated Ifric 21	Change Q1/Q1	Change Q1'/Q1*
Revenues	4,359	4,055	+7.5%	+9.4%
Operating expenses before SRF	(2,978)	(2,901)	+2.7%	+2.7%
SRF	(175)			
Gross operating income	1,206	1,154	+4.4%	+26.9%
Cost of risk	(477)	(590)	(19.2%)	(19.2%)
Operating income	729	564	(29.1%)	+79.5%
Share of net income from equity-accounted entities	476	455	+4.6%	+7.7%
Net income on other assets	(2)	5	nm	nm
Change in value of goodwill	-	-	nm	nm
Income before tax	1,203	1,024	+17.3%	+45.0%
Tax	(288)	(164)	+74.6%	x2.0
Net income from discontinued or held-for-sale operations	(17)	(1)	nm	nm
Net income	898	859	+4.5%	+32.7%
Non-controlling interests	114	95	+19.6%	+51.3%
Net income Group share	784	764	+2.6%	+30.9%

* 当四半期の特殊要因に関して修正再表示(スライド 33 を参照)。

2015 年度第 1 四半期の**収益**は、43 億 5,900 万ユーロとなり、また、既存社債の再評価、DVA running、及びローン・ヘッジに関する修正再表示後で 43 億 8,400 万ユーロとなりました。2014 年度第 1 四半期の収益は、40 億 5,500 万ユーロであり、既存社債の再評価、DVA、ローン・ヘッジ、及びイタリア中央銀行による株式再評価に関する修正再表示後で 40 億 800 万ユーロとなりました。したがって、修正再表示後の収益は前年同期比で 9.4%増加しました。

営業費用は、単一破綻処理基金(SRF)の初回拠出分の 1 億 7,500 万ユーロ、為替効果の 4,900 万ユーロ、新規納税義務額の 2,600 万ユーロ、システミック・リスク税のコスト低下による相殺分(3,300 万ユーロ)、及び連結範囲と LCL 変革計画¹によるプラス効果(-100 万ユーロ)を含めて 31 億 5,300 万ユーロとなりました。これらの要因について修正再表示した後の 2015 年度第 1 四半期の営業費用は、前年同期比で 1.2%増加しました。

リスク関連費用は、2014 年度第 1 四半期比で 19.2%減の 4 億 7,700 万ユーロでした。この減少は、フランス国内でのリテール・バンキングの継続的改善、及びリスク関連費用が前年同期比 36%減の 1

¹ BFCAG を含む。

億 400 万ユーロとなったイタリアの消費者金融子会社アゴス・デユカトにおける通常水準への復帰を反映するものです。したがって、リスク関連費用は、年換算で残高の 46 ベーシス・ポイントに達し、2014 年度第 1 四半期比で 14 ベーシス・ポイント改善しました。

不良債権残高は、顧客及び銀行間の総ローン残高¹の 3.6%(2014 年 3 月末現在では 3.8%)に相当する 153 億ユーロでした。特定引当金によってカバーされた不良債権の比率は 54.6%でした。一般引当金を含めると、不良債権引当率は、2014 年 3 月末現在の 71.1%に対して 72.8%となりました。

持分法適用会社の 2015 年度第 1 四半期の純利益帰属分は、4 億 7,600 万ユーロに達しました。これには、地域銀行からの 3 億 6,300 万ユーロ、クレディ・アグリコル CIB からの 6,400 万ユーロ(主にバンク・サウジ・フランジ)、及び専門金融サービスの 4,300 万ユーロ(主に自動車ローン提携事業関連)が含まれます。

全体では、クレディ・アグリコル S.A.の 2015 年度第 1 四半期の純利益グループ帰属分は、7 億 8,400 万ユーロとなりました。既存社債の再評価、DVA running、ローン・ヘッジ、及び単一破綻処理基金の影響に関する修正再表示後の純利益グループ帰属分は 9 億 8,100 万ユーロでした。2014 年度第 1 四半期の純利益グループ帰属分は、同じ要因及びイタリア中央銀行の株式再評価に関する修正再表示後で 7 億 4,900 万ユーロでした。これは、前年同期比で 30.9%の増加に相当します。

ソルベンシー

2015 年 3 月末現在、クレディ・アグリコル S.A.の財務力は、10.2%²(1 年間で 120 ベーシス・ポイント改善し、2015 年度第 1 四半期については 20 ベーシス・ポイント低下)に達したその完全適用後 CET1 の水準によって裏付けられました。レシオを 23 ベーシス・ポイント改善した内部留保(IFRIC 21 を除く)と(RWA の影響の控除後)9 ベーシス・ポイント寄与した保険範囲内での AFS の含み益の増加にもかかわらず、いくつか不利な要因がレシオの重荷となりました。IFRIC 21 の実施の季節的影響は、-8 ベーシス・ポイントとなり(単一破綻処理基金の初回拠出分を含む)、米ドルを中心とする為替の影響(純額)が-16 ベーシス・ポイントとなる一方、事業部門の有機的成長は、恒常為替レートで RWA を 93 億ユーロ増加させました(この増加は CACEIS と CIB において特に顕著)。

合計段階適用レシオ²は、2015 年 3 月 31 日現在で 19.7%に達し、1 年間で 350 ベーシス・ポイント、第 1 四半期では 10 ベーシス・ポイントそれぞれ上昇しました。このレシオは、2015 年度第 1 四半期に Tier 2 の発行から恩恵を受けました。

クレディ・アグリコル S.A.のレバレッジ・レシオは、欧州委員会が採択した委任法令に基づいて 4.4%³(2014 年末現在では 4.2%)となりました。

¹ クレディ・アグリコル内部取引、未収利息、及びファイナンス・リースを除く。

² 未監査の 2015 年度第 1 四半期業績を含む。

³ ECB の承認を前提とし、グループ内取引の非ウェイト化に関連する+100 ベーシス・ポイントの影響を伴う。

流動性

クレディ・アグリコル・グループのバランスシート上の現金は、2014 年 12 月末現在の 1 兆 290 億ユーロ及び同年 3 月末現在の 1 兆 280 億ユーロに対して、2015 年 3 月末現在では総額 1 兆 420 億ユーロでした。

長期の利用可能資金に対する長期資金調達超過額は、2014 年 12 月 31 日現在の 1,010 億ユーロ及び同年 3 月 31 日現在の 730 億ユーロに対して、2015 年 3 月 31 日現在では 1,040 億ユーロでした。これは、2014 年 3 月 31 日から 30 億ユーロの増加、同年 3 月 31 日から 2015 年 3 月 31 日までの 1 年間では 310 億ユーロの増加となります。

証券ポートフォリオに関連する評価益及びヘアーカットを含む流動性準備金は、2015 年 3 月 31 日現在で 2,480 億ユーロに達し、総短期債務の 217.5%をカバーしました(2014 年 12 月 31 日現在で 203.3%、同年 3 月 31 日現在で 164.2%)。評価益及びヘアーカット後の HQLA 証券は、中央銀行に預け入れていない短期債券の 162.5%を占めました。当グループとクレディ・アグリコル S.A.は共に、LCR レシオが 2015 年 3 月末現在で 110%を上回りました。

2015 年度第 1 四半期中に、クレディ・アグリコル・グループの主な発行体は、市場及び支店ネットワークにおいてシニア債と劣後債によって総額 107 億ユーロを調達しました。クレディ・アグリコル S.A.単体では、シニア債によって 18 億ユーロ相当額を調達し、また、20 億ユーロの 12 年債及び 15 億米ドルの 10 年債から成る Tier 2 の発行を実施しました。クレディ・アグリコル S.A.は 2015 年 3 月 31 日現在、その総額 100 億ユーロの中・長期市場資金調達プログラム(シニア債と劣後債)の 54%を完了しました(支店ネットワークを除く)。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. クレディ・アグリコル地域銀行

<i>(in millions of euros)</i>	Q1-15	Q1-14	Change Q1/Q1
Net income accounted for at equity (at ~25%)	198	208	(4.8%)
Change in share of reserves	165	149	+10.6%
Share of net income of equity-accounted entities	363	357	+1.7%

地域銀行は 2015 年度第 1 四半期に、全ての事業分野でバランスの取れた成長を達成するという戦略を引き続き実施しました。

顧客預かり資産は成長を維持し、2015 年 3 月末現在で前年同期比 3.2%増の 6,100 億ユーロとなりました。成長をけん引したのは、2015 年 3 月末現在で 3,560 億ユーロ(前年同期比 3.0%増)となったオン・バランスシート預金と 2,540 億ユーロ(前年同期比 3.3%増)となったオフ・バランスシート顧客預かり資産です。オン・バランスシート預金の増加は主に、満期が近い定期預金及び口座(6.2%減)から恩恵を受けた要求払預金(8.9%増)によるものでした。当四半期の住宅購入貯蓄プランは、顧客が 2 月 1 日の引き下げ前の 1 月中に現行規制金利を利用しようとしたことで、前年同期比 7.8%増と大きな成長を達成しました。当四半期の相互株主非課税貯蓄性口座の預金は、前年同期比で 51.5%増加しました。一方、オフ・バランスシート顧客預かり資産は、引き続き生命保険にけん引されて、2015 年 3 月末現在で前年同期比 4.5%増となりました。

2015 年 3 月末現在のローン残高は、前年同期比 1.0%増の 4,020 億ユーロとなりました。この成長は主に、住宅ローン(2.5%増)が寄与する一方で、中小企業セグメントは、残高が 3.4%増となる改善を見せました。

2015 年 3 月末現在の預貸比率¹は、2014 年 3 月末現在と比べて安定を維持し、115%となりました。

2015 年度第 1 四半期の地域銀行の収益(グループ内取引修正後)は、2014 年度第 1 四半期比で 2.2%減の 34 億 7,200 万ユーロとなりました。この数字には、住宅購入貯蓄プラン引当金の -1 億 3,900 万ユーロが含まれています(2014 年度第 1 四半期は+1,500 万ユーロ、同年度第 4 四半期は-1 億 8,900 万ユーロ)。手数料収入は、生命保険の堅調な事業成長(手数料は年次手数料分配調整後で前年同期比 14.0%増)とバンキング・サービス(5.1%増)を主因として 7.3%の急成長を達成しました。金利マージンは、引き続き規制貯蓄コストの悪影響を受けましたが、高い水準の早期返済違約金から恩恵を受けました(2014 年度前半の四半期から 2015 年度の間 3,700 万ユーロ増)。

2015 年度第 1 四半期の営業費用は、-4,600 万ユーロとなった SRF の影響を除くと安定しました(前

¹ 2014 年 3 月から方式変更。2013 年 12 月の試算値は、EIB 及び CDC の資金調達と顧客関連資金に分類されるユニット・リンク型契約に含まれる CAsa 債、及び特定引当金控除後の顧客ローンを含む。

年同期比 0.2%減)。

地域銀行のリスク関連費用は、前年同期比 36.4%減の-1 億 9,600 万ユーロ(これはローン残高の 11 ベーシス・ポイント減に相当)となり、引き続き顕著に改善しています。この傾向は、経済環境の着実な改善を反映しており、特定引当金の費用減少と一般引当金の戻入れにつながりました。不良債権比率は 2.6%で安定する一方、一般引当金を含む不良債権引当率は 100%を超える水準を維持しました。

したがって、2015 年度第 1 四半期の営業利益は、SRF の影響を除くと前年同期比 3.0%増の 12 億 7,300 万ユーロとなりました。

全体では、クレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分に対する地域銀行の 2015 年度第 1 四半期の寄与は、前年同期比 1.7%増の 3 億 6,300 万ユーロでした。なお、各年度の第 1 四半期には、地域銀行の準備金シェアの変動分が含まれており、2015 年度第 1 四半期は 1 億 6,500 万ユーロでした(地区金庫の年次株主総会のスケジュール設定及び開催を主要因として 10.7%増)。

1.2. LCL

(in millions of euros)	Q1-15	Q1-14	Change Q1/Q1
Revenues	922	956	(3.6%)
Operating expenses before SRF and transformation plan	(644)	(650)	(0.9%)
SRF	(12)	-	-
Impact of transformation plan	(8)	(4)	-
Gross operating income	258	302	(14.8%)
Cost of risk	(48)	(70)	(31.2%)
Operating income	210	232	(9.8%)
Income before tax	210	232	(9.9%)
Tax	(78)	(84)	(7.3%)
Net income	132	148	(11.4%)
Non-controlling interests	6	7	(11.0%)
Net income Group share	126	141	(11.4%)

2015 年度第 1 四半期は、預金の増加とリスク関連費用の低下が相まって、2014 年度に見られた傾向が維持されました。

堅調な事業拡大に伴い、顧客預かり資産は、2015 年 3 月末時点で 3.8%増の 1,708 億ユーロを記録しました。オン・バランスシート預金は、主に要求払預金の伸び(10.3%増)にけん引されて 3.7%増となりました。オフ・バランスシートの顧客預かり資産は、主に生命保険の力強い成長(1 年間で 5.1%増)が寄与して前年同期比 3.9%増となりました。

2015 年 3 月末現在のローン残高は、前年同期比 2.9%増の 919 億ユーロでした。この伸びは、前年同期比 4.8%増の 593 億ユーロを記録した住宅ローンにけん引されたものです。中小企業及びスモールビジネス向けのローンは、前年同期比 0.8%の微増となる 261 億ユーロで、消費者金融は同じ期間に 1.1%増の 66 億ユーロとなりました。

2015 年 3 月末現在の預貸比率は、2014 年 12 月末現在(109%)からほぼ横ばいの 110%となりました。

2015 年度第 1 四半期の収益は、前年同期比で 3.6%減となりました。金利マージンは、預金マージンの減少(規制金利に関連して 3 月末現在で前年同期比およそ-4,000 万ユーロ)と不十分なポートフォリオ売却益により、前年同期比で減少しました。対照的に、貸付マージンは、ローンの条件再交渉により増加すると共に、新たな組成に関連するマージンは株式マージンを上回りました(再交渉分を除く)。手数料収入は 4.2%増でした。

2014 年度第 1 四半期の営業費用(SRF と変革計画を除く)は、前年同期比で 0.9%減少しました。2015 年度第 1 四半期の変革計画に関連する費用は、前年同期に記録した金額の倍となる 800 万ユーロでした。

2015 年度第 1 四半期のリスク関連費用は、前年同期比 31.2%減と低い水準を維持しました。不良債権比率は 2015 年 3 月末現在で 2.3%となり、また、不良債権引当率(一般引当金を含む)は 2014 年 3 月末現在の 73.8%に対して 72.4%となりました。

全体では、純利益グループ帰属分は、2014 年度第 1 四半期比で 11.4%減となる 1 億 2,600 万ユーロでした。

2. 国際リテール・バンキング

2015 年度第 1 四半期の当部門の純利益グループ帰属分は、前年同期の 700 万ユーロに対して 2,700 万ユーロでした。

(in millions of euros)	Q1-15	Q1-14	Change Q1/Q1
Revenues	644	692	(6.8%)
Operating expenses before SRF	(375)	(385)	(2.4%)
SRF	(8)	-	-
Gross operating income	261	307	(15.0%)
Cost of risk	(149)	(258)	(42.6%)
Operating income	112	49	x2.3
Share of net income from equity-accounted entities	1	(12)	nm
Net income on other assets	-	-	nm
Income before tax	113	37	x3.1
Tax	(46)	(17)	x2.6
Net income from discontinued or held-for-sale operations	(16)	-	nm
Net income	51	20	x2.7
Non-controlling interests	24	13	+89.1%
Net income Group share	27	7	x4.1

イタリアでは、カリパルマが 2015 年度第 1 四半期に力強く業績を伸ばしました。2015 年 3 月末現在の顧客預かり資産は、前年同期比 8.8%増の 959 億ユーロでした。この伸びは、当グループのさまざまなイタリア子会社間での商品のクロスセリングの加速によるものです。オフ・バランスシートの顧客預かり資産は、生命保険と投資信託資産の 47 億ユーロ(24%)増にけん引されて、2014 年 3 月末現在と比べて 16.0%増を記録しました。オン・バランスシート預金は、管理貯蓄の寄与はあったものの 1.6%減となりました。

ローン残高は、前年同期比 4.9%増となった住宅ローンの好業績により、2015 年 3 月末現在で前年同期比 0.5%増の 333 億ユーロでした。

なお、2014 年度第 1 四半期のクレディ・アグリコル S.A.の連結利益に対するカリパルマの寄与分には、2013 年 12 月 31 日時点の国内連結財務諸表で計上された項目が含まれています。これらの項目は、収益として計上された 8,000 万ユーロのプラスの非経常項目(イタリア中央銀行による株式再評価に伴う 9,200 万ユーロを含む)と、リスク関連費用として計上された-1 億 900 万ユーロ(2013 年度第 4 四半期にコーポレート・センターで計上され、2014 年度第 1 四半期に戻り入れられた 9,000 万ユーロの引当金を含む)で構成されています。

これらの項目の修正再表示後の収益は、2015 年度第 1 四半期に前年同期比 6.3%増の 4 億 1,800 万ユーロとなりました。成長の原動力となったのは、オフ・バランスシート預金の好調な伸びによる手数

料収入の増加(8.6%¹増)と、プラスのボリューム効果による純金利マージンの増加(2.3%増)でした。

単一破綻処理基金(SRF)を除いた 2015 年度第 1 四半期の営業費用は、前年同期比 2.8%減となりました。SRF に対するカリパルマの拠出額は 700 万ユーロでした。SRF にもかかわらず、当四半期のコスト比率は、支店ネットワークの継続的な変革により 3.3¹ポイント改善して 55.4%となりました。

2015 年度第 1 四半期のリスク関連費用は、イタリア経済の改善と厳格なリスク管理により、前年同期比で 7.7%¹ 減の 9,900 万ユーロとなりました。合計残高に対する不良債権比率は 13.3%、引当率(一般引当金を含む)は 44.6%でした。

カリパルマの純利益グループ帰属分は、2014 年度第 1 四半期の 2,300 万ユーロ¹に対して 3,900 万ユーロとなりました。

当グループの他の海外子会社も順調に業績を拡大しました。顧客預かり資産は、2015 年 3 月末現在で前年同期比 8.9%増となる 132 億ユーロを記録しました。この伸びをけん引したのは、エジプトでの要求払預金(47%²増)とポーランドでの定期預金(37%² 増)です。投資信託及び証券の好業績(前年同期比 15.1%増の 15 億ユーロ)を受けて、オフ・バランスシートの顧客預かり資産も拡大しました。

ローン残高は、中小企業及びスモールビジネス・セグメントの成長拡大がポーランドとエジプトで達成されたことで、2015 年 3 月末現在で 4.1%増の 104 億ユーロに達しました。

2015 年 3 月末時点でのローンに対する預金の超過額は、12 億ユーロとなりました。

2015 年度第 1 四半期の当グループの他の海外子会社の収益は、クレディ・アグリコル・エジプトの収益が 27%² 増の 6,300 万ユーロという記録的な伸びを達成したことが寄与して、前年同期比 3.6%増となりました。

2015 年度第 1 四半期のリスク関連費用は、5,000 万ユーロと 2014 年度第 1 四半期を上回りましたが、前四半期比ではわずかな改善となりました。年間の増加分は、いくつかの子会社で拡大しましたが、特定の傾向を示すものではありません。

当グループの他の海外子会社は、クレディ・アグリコル・アルバニアの IFRS 第 5 号への再分類により悪影響を受けました。

したがって、2015 年度第 1 四半期の純利益グループ帰属分は、-1,200 万ユーロとなりました。

¹ カリパルマがその国内連結財務諸表(2013 年 12 月 31 日現在)で計上した項目と 2014 年度第 1 四半期にクレディ・アグリコル S.A.が計上した項目(すなわち、収益の+8,000 万ユーロ(このうち、イタリア中央銀行による株式再評価が+9,200 万ユーロで、リスク関連費用が-1 億 900 万ユーロ)、及びこれらの項目に関連する所得税を除く。

² 為替効果を除く。

3. 資産管理と保険

当部門には、資産運用、保険、プライベート・バンキング、及び資産運用サービスが含まれます。

2014 年度の資産運用額には、アムンディが投資顧問を行った販売資産が含まれます。

2015 年度第 1 四半期の資産運用額は、アムンディの 240 億ユーロ、貯蓄/退職保険の 20 億ユーロ、プライベート・バンキングの 15 億ユーロをはじめとする全てのセグメントでの 275 億ユーロのプラスの資金流入額(純額)により、前四半期比で 926 億ユーロ増加しました。堅調な業績に加えて、当部門は、598 億ユーロに上るマーケットと為替のプラス効果と、資産管理での 53 億ユーロの連結効果から恩恵を受けました。合計資産運用額は、2015 年 3 月 31 日現在で 7.3%増の 1 兆 3,605 億ユーロとなりました。2015 年度第 1 四半期の当部門の純利益グループ帰属分は、前年同期比 11.3%増(単一破綻処理基金(SRF)への拠出分を除くと 14.2%増)の 4 億 200 万ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q1-15	Q1-14	Change Q1/Q1
Revenues	1,431	1,299	+10.1%
Operating expenses excluding SRF	(734)	(691)	+6.1%
SRF	(12)	-	-
Gross operating income	685	608	+12.6%
Cost of risk	(8)	(5)	+69.4%
Operating income	677	603	+12.1%
Equity affiliates	6	4	+31.8%
Net income on other assets	(3)	-	nm
Income before tax	680	607	+11.8%
Tax	(242)	(212)	+13.9%
Net income	438	395	+10.7%
Non-controlling interests	36	34	+3.8%
Net income Group share	402	361	+11.3%

資産運用部門では、アムンディの資産運用額が 9,500 億ユーロ超に達しました。当四半期の資金流入額(純額)は、記録的な水準となる 240 億ユーロとなりました(このうちの半分は、特にフランスを除く欧州とアジアで実現されました)。この新規資金流入額(純額)の半分は、主に債券、分散投資商品、及び ETF 商品などの長期資産に投入され(122 億ユーロ)、残りの半分は現金に投入されました(118 億ユーロ)。この活動は、全ての顧客セグメントによってけん引されました。リテール顧客セグメントは、99 億ユーロの新規流入額(純額)とフランスの支店ネットワークからの新規資金流入額(純額)がプラスに転じたことにより好業績となりました。大口顧客(機関投資家と企業)の純増額も、141 億ユーロと堅調な運用パフォーマンスの恩恵を受けました。当四半期には、資産運用額を 53 億ユーロ増額させたオーストリアの Bawag Invest 買収も完了しました。マーケットと為替のプラス効果は 474 億ユーロに達し、これにより 2015 年 3 月末時点の資産運用額は 9,542 億ユーロに増加しました。2015 年 3 月末現在の資産運用額は、前四半期比で 8.7%増、前年同期比では 18.0%増となりました。

アムンディは、2015 年度第 1 四半期に堅調な収益の伸びを維持し、純利益が 1 億 2,500 万ユーロ、

純利益グループ帰属分が 9,800 万ユーロとなりました。当四半期の収益は、資産運用額の増加と商品構成の改善により、前年同期比で 17.2% (Bawag Invest を除くと 16.2%) 増加しました。当四半期の費用は、SRF を除いた同一条件下では前年同期比で 6.4% 増となりました (為替効果を除くと 3.9% 増)。この実績は、アムンディの国際的な地位の強化を反映するものです。全体では、コスト比率は、2014 年度第 1 四半期比で 4.4 ポイントの改善となる 53.9% と高い競争力を示す水準に留まりました。

資産運用サービス部門では、**CACEIS** は、営業努力を継続し、カストディー資産の更なる増加につながりました。これは、2014 年 3 月末時点で 10.2% 増の 2 兆 5,160 億ユーロとなりました。順調な事業拡大により、資産管理額は前年同期比 11.1% 増の 1 兆 4,970 億ユーロとなりました。

収益の増加 (2014 年度第 1 四半期比で 7.8% 増) は、SRF の影響を相殺しました (営業費用の 1,000 万ユーロと純利益グループ帰属分の 900 万ユーロ)。したがって、当四半期の純利益グループ帰属分は、1,500 万ユーロ (SRF を除くと 2,400 万ユーロ) で安定を維持しました。

プライベート・バンキング部門では、2015 年度第 1 四半期に資産流入額 (純額) が 15 億ユーロとなったことを主因として、運用資産額は 2015 年 3 月 31 日現在で前四半期比 7.3% 増の 1,519 億ユーロとなりました。

2015 年度第 1 四半期の純利益グループ帰属分は、手数料収入 (特に取引手数料) の増加に伴う収益増と好ましい為替効果により、前年同期比で 6.8% 増を達成しました。全体では、純利益グループ帰属分は 2,500 万ユーロでした。

保険部門では、2015 年度第 1 四半期の保険料収入が 88 億ユーロとなりました。貯蓄/退職保険及び死亡・高度障害保険への新規資金流入額 (純額) は、フランスでの 12 億 5,000 万ユーロを含めて 23 億ユーロを記録しました。

貯蓄/退職保険セグメントは好調を維持しました。2015 年度第 1 四半期の保険料収入は、前年同期の 63 億ユーロに対して 68 億ユーロとなり、フランス及び国外 (特にイタリアでの急成長の持続) の双方で増加しました。貯蓄/退職保険の運用資産額は、2015 年 3 月末時点で前年同期比 6.6% 増の 2,544 億ユーロとなりました。ユーロ資金は前年同期比 5.1% 増の 2,043 億ユーロとなる一方、ユニット・リンク型ファンドは前年同期比 7.7% 増の 501 億ユーロでした。ユニット・リンク型ファンドのシェアは、前年比で 1.2 ポイント増となり、四半期ごとの流入額の 22%、ストックの 19.7% となりました。更に、「ユーロ成長」契約による流入額は 4 月に 1 億ユーロに達しました。

死亡・高度障害保険/健康保険/団体信用保険セグメントでは、2015 年度第 1 四半期の保険料収入は、前年同期比 5.3% 増の 11 億 600 万ユーロとなりました。死亡・高度障害保険/健康保険の保険料収入は、健康保険商品がけん引役となり前年同期比 5.0% 増となりました。団体信用保険は、フランス及び国外の双方で増加し、全体で 6.0% の伸びを記録しました。

損害保険は、特に自動車保険 (前年比 6.4% 増) 及び包括的家計保険 (11.9% 増) の成長拡大により成長を維持しました。2015 年度第 1 四半期の保険料収入は、前年同期比 4.1% 増の 9 億 4,800 万ユーロでした。節目となる 1,000 万件的保険契約が、フランスで達成されました。保険料収入に対する (請求額+営業費用) の比率として定義されるコンバインドレシオ (再保険後) は、引き続き抑制されました。これは、パシフィカについては 96.1% でした。

2015 年度第 1 四半期の保険部門の純利益グループ帰属分は、2 億 6,400 万ユーロに達し、収益は前年同期比 5.3%増となりました。同時に、当四半期の営業費用は 4.9%増でした。当四半期のコスト比率は、33.9%で安定を維持しました。

最後に、CAA は 2015 年 1 月、総額 10 億ユーロの無期限劣後債を成功裏に発行しました。

4. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q1-15	Q1-14	Change Q1/Q1
Revenues	646	686	(5.9%)
Operating expenses before SRF	(349)	(361)	(3.3%)
SRF	(17)	-	nm
Gross operating income	280	325	(13.7%)
Cost of risk	(205)	(282)	(27.3%)
Operating income	75	43	+75.5%
Share of net income from equity-accounted entities	43	31	+38.1%
Change in value of goodwill	-	-	-
Income before tax	118	74	+60.8%
Tax	(35)	(16)	x2.2
Net income from discontinued or held-for-sale operations	(1)	6	nm
Net income	82	64	+29.7%
Non-controlling interests	14	3	x5.6
Net income Group share	68	61	+12.2%

2015 年度第 1 四半期における専門金融サービス部門の純利益グループ帰属分は、前年同期の 6,100 万ユーロに対して 6,800 万ユーロとなりました。この中には、純利益グループ帰属分における SRF の 1,600 万ユーロの費用が含まれています。2014 年度第 4 四半期の流れに沿って、消費者金融(特にクレディ・アグリコル・グループのバンキング・ネットワーク)、自動車ローン提携事業、及びファクタリングの分野で上昇傾向が見られました。連結効果(すなわち、過去 12 ヶ月間でのアゴス・デュカトによるポートフォリオ売却と子会社の Finaref Nordic 及び Dan Aktiv の売却についての修正再表示)を除くと、管理消費者信用残高は 2.0%増加しました。地理的な内訳はこれまでの四半期と変わらず、それぞれの残高はフランスが 38%、イタリアが 32%、他の諸国が 30%でした。新規貸付は、自動車ローン提携事業とクレディ・アグリコル・グループのバンキング・ネットワークが主に寄与して、2014 年度第 1 四半期比で 9.8%増となりました。消費者金融とファクタリングの拡大にもかかわらず、CACF のレベルで統合される残高は前年同期比で 5.1%減でした。この残高減少に伴い、この部門の収益は、前年同期比 5.9%減の 6 億 4,600 万ユーロとなりました。残高の減少は、さまざまな売却処分(CACF についての上記の連結効果を参照。また、CAL&F については CAL ヘラスを含む)の実施後の連結効果によるものでした。営業効率の改善が進んでおり、1,700 万ユーロとなった SRF を除いた費用は、前年同期比で 3.3%減となりました。最後に、リスク関連費用は、アゴス・デュカトでの改善を主要因として大幅

に減少しました。

一方、CACF は、預金の増加によって引き続き自己調達率を高めており、これは、2015 年 3 月末時点で 39 億ユーロに達しました(ドイツでの 20 億ユーロを含む)。FGA キャピタルは 2015 年 1 月、資金調達源をより適切に分散化するという目的からドイツで銀行業免許を取得し、FCA バンクとなりました。

営業費用は、1,100 万ユーロの初回 SRF 拠出にもかかわらず、2 億 8,300 万ユーロに抑制されました。

2015 年度第 1 四半期の消費者金融のリスク関連費用は、アゴス・デュカトを主な要因として前年同期比 28.8%減の 1 億 8,800 万ユーロとなり、これは残高(年率)の 212 ベーシス・ポイント(前年同期は 293 ベーシス・ポイント)でした。2015 年度第 1 四半期のアゴス・デュカトのリスク関連費用は 36%減の 1 億 400 万ユーロとなりました。アゴス・デュカトの不良債権比率は 2015 年 3 月末時点で 10.1%(前年の 3 月末時点では 11.9%)であり、また、不良債権引当率は一般引当金を含めて 102.9%でした。

全体では、CACF の純利益グループ帰属分は、2014 年度第 1 四半期の 4,300 万ユーロに対して 5,300 万ユーロとなりました。

リース・ファイナンス及びファクタリング部門では、事業及び地理的地域によって残高傾向にばらつきがありました。2014 年度第 4 四半期のギリシャの CAL ヘラス売却後(残高の 4 億ユーロ)の 2015 年度第 1 四半期の残高は、149 億ユーロで安定しました。当四半期の買取売掛債権は、前年同期比 8.2%増の 158 億ユーロを記録しました。

当四半期の CAL&F の収益は、リース・ファイナンス残高の低下(CAL ヘラス売却とポートフォリオ売却)により、前年同期比 4.4%減の 1 億 2,700 万ユーロとなりました。営業費用は、600 万ユーロの初回 SRF 拠出にもかかわらず 8,300 万ユーロに抑制されました。リスク関連費用は前年同期比 5.1%減となりました。2015 年度第 1 四半期の CAL&F の純利益グループ帰属分は 1,500 万ユーロでした。

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

2015 年度第 1 四半期の法人営業及び投資銀行の純利益グループ帰属分は、3 億 2,000 万ユーロとなりました。ローン・ヘッジ(-300 万ユーロ)及び DVA running の影響(+700 万ユーロ)を修正再表示すると、純利益グループ帰属分は、単一破綻処理基金(SRF)への 7,800 万ユーロの拠出分を含めて 3 億 1,600 万ユーロとなりました。

ファイナンス事業は、修正再表示した純利益グループ帰属分に 1 億 8,600 万ユーロ寄与し(2014 年度第 1 四半期は 1 億 7,900 万ユーロ)、また、資本市場及び投資銀行部門は 1 億 3,000 万ユーロ寄与しました(2014 年度第 1 四半期は 8,300 万ユーロ)。

非継続事業は、現時点で資本市場及び投資銀行又はファイナンス事業に含まれており、また、SFS(仕組み金融ソリューション)は、ファイナンス事業から資本市場及び投資銀行への移行が行われました。

CA-CIB の合計(非継続事業を含む)

(in millions of euros)	Q1-15	Q1-15*	Q1-14	Q1-14*	Change Q1*/Q1*
Revenues	1,225	1,219	985	984	+23.9%
<i>o/w Financing activities</i>	548	552	515	500	+10.7%
<i>o/w Capital markets and investment banking</i>	677	667	470	484	+37.6%
Operating expenses before SRF	(631)	(631)	(597)	(597)	+5.8%
SRF	(80)	(80)	-	-	-
Gross operating income	514	508	388	387	+31.2%
Cost of risk	(81)	(81)	(56)	(56)	+45.5%
Operating income	433	427	332	331	+28.8%
Share of net income from equity-accounted entities	64	64	40	40	+58.1%
Net income on other assets	1	1	-	-	nm
Income before tax	498	492	372	371	+32.2%
Tax	(171)	(169)	(97)	(97)	+73.7%
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	(7)	(7)	nm
Net income	327	323	268	267	+20.5%
Non-controlling interests	7	7	5	5	+29.6%
Net income Group share	320	316	263	262	+20.3%

* ローン・ヘッジ及び DVA running の影響について修正再表示。

2015 年度第 1 四半期の法人営業及び投資銀行の収益は、堅調な事業推移と為替のプラス効果が

寄与して、前年同期比 23.9%¹増の 12 億 2,500 万ユーロとなりました。

2015 年度第 1 四半期の**資本市場及び投資銀行部門**の収益は、6 億 7,700 万ユーロとなりました。DVA の影響を除いた収益は、全ての商品で成長を記録したことにより、前年同期比 29.5%²増の 6 億 6,700 万ユーロとなりました。

当四半期の債券による収益は 5 億 7,400 万ユーロを記録し、好ましい市場条件(量的緩和と変動性)に支えられた債券オリジネーション、金利及び外国為替の分野での順調な業績拡大を裏付けました。同様に、全体的な好業績により、2015 年度第 1 四半期の投資銀行部門の収益は、前年同期の 5,700 万ユーロに対して 9,300 万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル CIB は現在、ユーロ建て債券発行³で世界第 3 位を占めると共に、多くの債券発行カテゴリ³で世界のトップ 3 に数えられます。また、国際機関³のユーロ建て債券発行で世界のリーダーであるほか、金融機関³のユーロ建て債券発行では世界第 2 位、ソブリン債及びスーパナショナル債券³の発行では世界第 3 位となっています。クレディ・アグリコル CIB はまた、欧州 ABCP 証券化⁴及びグリーンボンド⁵の主幹事業で主導的地位を維持しています。

2015 年 3 月末現在の最大損失予想額(VaR)は、前年同期の 700 万ユーロから微増の 1,000 万ユーロで、当四半期の平均は 900 万ユーロとなりました。

2015 年度第 1 四半期の**ファイナンス事業**の収益は、2014 年度第 1 四半期比で安定を維持する 5 億 4,800 万ユーロ(ローン・ヘッジの影響を除くと 5 億 5,200 万ユーロ)となりました(為替効果の修正再表示後)。ストラクチャード・ファイナンスの収益は、航空機及びインフラのファイナンス、発生件数、及び手数料の好調な推移を反映して 3 億 3,500 万ユーロとなりました。商業銀行部門の収益は、堅調な事業推移にもかかわらず、比較対象である前年同期の数字が大きいために 2 億 1,700 万ユーロに減少しました。

クレディ・アグリコル CIB は、航空機ファイナンス⁶で世界第 1 位を維持すると共に、フランスのシンジケーション部門でも主導的地位を維持しました³。この部門はまた、EMEA 圏³でのプロジェクトファイナンス・アレンジメントで第 3 位を維持しました。クレディ・アグリコル CIB は、リード・マネージャーで第 1 位、ブックランナーで第 2 位などシンジケート不動産ファイナンスにおいて欧州のリーダーとなっています⁷。

法人営業及び投資銀行部門の 2015 年度第 1 四半期の営業費用は、単一破綻処理基金(SRF)についての 8,000 万ユーロの費用を含めて 7 億 1,100 万ユーロとなりました。SRF を除いた当四半期の営業費用は、主に米ドル高に伴う悪影響により前年同期比で 5.8%増となりました。SRF を除いた恒常為替レートでの営業費用は、安定的に推移しました。

¹ ローン・ヘッジ及び DVA running の影響について修正再表示。

² ローン・ヘッジ及び DVA running の影響について、恒常為替レートで修正再表示。

³ 出典:トムソン・ファイナンシャル。

⁴ 出典:CP ウェア。

⁵ 出典:クレディ・アグリコル CIB。

⁶ 出典:Air Finance Database。

⁷ 出典:Dealogic Real Estate Finance。

2015 年度第 1 四半期のコスト比率は引き続き抑制され、費用総額は 2014 年度第 1 四半期の 5,600 万ユーロに対して 8,100 万ユーロとなりました。

2015 年度第 1 四半期の持分法適用会社からの利益シェアは、主にバンク・サウジ・フランジの業績拡大により、前年同期の 4,000 万ユーロに対して 6,400 万ユーロとなりました。

6. コーポレート・センター

(in millions of euros)	Q1-15	Q1-14	Change Q1/Q1
Revenues	(509)	(563)	(9.6%)
<i>o/w capital and liquidity management</i>	(576)	(615)	(6.5%)
<i>o/w net costs allocated to equity investments and subordination</i>	(328)	(405)	(19.0%)
<i>o/w Switch</i>	(186)	(186)	-
<i>o/w issuer spreads</i>	(31)	(47)	(33.9%)
<i>o/w other</i>	98	99	(1.5%)
Operating expenses before SRF and new taxes *	(211)	(213)	(1.0%)
Impact of SRF and new taxes *	(72)	-	-
Gross operating income	(792)	(776)	+2.0%
Cost of risk	14	81	(82.7%)
Operating income	(778)	(695)	+11.9%
Share of net income from equity-accounted entities	(1)	35	nm
Net income on other assets	-	5	nm
Income before tax	(778)	(655)	+18.9%
Tax	284	262	+8.4%
Net income	(495)	(393)	+25.8%
Non-controlling interests	27	33	(18.8%)
Net income Group share	(522)	(426)	+22.3%
Net income Group share excluding issuer spreads, SRF and new taxes*	(441)		

* SRF (-4,600 万ユーロ)、新規 ECB 及び SRB の税金 (-400 万ユーロ)、新たに納付義務が生じた C3S の税金 (-2,200 万ユーロ)。

2015 年度第 1 四半期の収益は、2014 年度第 1 四半期の-5 億 6,300 万ユーロに対して-5 億 900 万ユーロとなりました。収益には、2014 年度第 1 四半期の-4,700 万ユーロに対して-3,100 万ユーロの発行体スプレッドが含まれています。

中央機関及びトレジャラーとしてのクレディ・アグリコル S.A.の資本、金利、流動性及び債券運用のコストは、前年同期比で 6.5%改善しました。これは、資金タイプ(流動性、資本、債券など)別の資金調達コストの経済的配分の見直しにより、持分投資と劣後債発行に関連する資本調達コストの 19%減を主な要因としています。

Switch のコストは、-1 億 8,600 万ユーロで引き続き安定しました。

コーポレート・センターに割り当てられる 2015 年度第 1 四半期の営業費用(SRF、新規 ECB 及び SRB の税金、新たに納付義務が生じた C3S の税金)は、前年同期比 1.0%減となりました。

2015 年度第 1 四半期の持分法適用会社の純利益帰属分は、前年のような 3,500 万ユーロの利益から恩恵を受けませんでした。これはもっぱら、コーポレート・センターで計上されたユーラゼオ社からの寄与の変動によるものでした。

全体では、2015 年度第 1 四半期の純利益グループ帰属分は、2014 年度第 1 四半期の-4 億 2,600 万ユーロに対して-5 億 2,200 万ユーロでした。発行体スプレッド、SRF、新規 ECB 及び SRB の税金、新たに納付義務が生じた C3S の税金を修正再表示すると、純利益グループ帰属分は-4 億 4,100 万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

2015 年 3 月末現在の当グループの顧客ローン残高は 7,260 億ユーロでした。資金調達に関しては、オン・バランスシートの顧客預金は、およそ 6,360 億ユーロに達しました。

(in millions of euros)	Q1-15	Q1-14*	Change Q1/Q1*
Revenues	8,035	7,796	+3.1%
Operating expenses before SRF	(5,104)	(5,013)	+1.8%
SRF	(226)	-	-
Gross operating income	2,705	2,783	(2.8%)
Cost of risk	(683)	(907)	(24.7%)
Operating income	2,022	1,876	+7.7%
Share of net income from equity-accounted entities	113	97	+16.5%
Net income on other assets	(4)	-	nm
Change in value of goodwill	-	(1)	nm
Income before tax	2,131	1,972	+8.0%
Tax	(790)	(637)	+24.0%
Net income from discontinued or held-for-sale operations	(17)	7	nm
Net income	1,324	1,342	(1.4%)
Non-controlling interests	96	90	+6.3%
Net income Group share	1,228	1,252	(1.9%)

* 税務会計上の IFRIC 21「課徴金」の解釈の影響について修正再表示。

2015 年度第 1 四半期のクレディ・アグリコル・グループの収益は、2014 年度第 1 四半期比 3.1%増の 80 億 3,500 万ユーロとなりました。事業活動とは無関係の項目(コーポレート・センターで計上された発行体スプレッド、DVA running、及び法人営業及び投資銀行部門のローン・ヘッジ)は、前年同期の -4,500 万ユーロに対して -2,500 万ユーロとなりました(カリパルマが計上した、イタリア中央銀行による株式再評価の +9,200 万ユーロも含む)。これらの特殊要因を修正再表示すると、当四半期の収益は前年同期比で 4.0%増となりました。

営業費用には、2 億 2,600 万ユーロの費用となる単一破綻処理基金(SRF)への初回拠出分が含まれます。SRF を修正再表示すると、2015 年度第 1 四半期の営業費用は前年同期比で 1.8%増となりました。

リスク関連費用は、前年同期比で 24.7%減となりました。これは、2015 年度第 1 四半期の残高が前年同期の 45 ペーシス・ポイントに対して 11 ペーシス・ポイント減の 34 ペーシス・ポイントとなります。この減少は特に、フランスのリテール・バンキング部門とファイナンス事業(特にアゴス・デュカト)で顕著で

した。

全体では、2015 年度第 1 四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期の 12 億 5,200 万ユーロに対して 1.9%減となる 12 億 2,800 万ユーロでした。

Crédit Agricole S.A.'s financial information for the first quarter of 2015 consists of this press release and the attached presentation. All regulated information, including the registration document, is available on the website www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholders under "Financial reporting" and is published by Crédit Agricole S.A. pursuant to the provisions of article L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulation.

Press Relations		Investors Relations	+33 (0) 1 43 23 04 31
Anne-Sophie Gentil	+ 33 (0) 1 43 23 37 51	Denis Kleiber	+ 33 (0) 1 43 23 26 78
Charlotte de Chavagnac	+ 33 (0) 1 57 72 11 17	Nathalie Auzenat	+ 33 (0) 1 57 72 37 81
Alexandre Barat	+ 33 (01) 43 23 07 31	Sébastien Chavane	+ 33 (0) 1 57 72 23 46
Louise Tingström	+ 44 7899 066995	Fabienne Heures	+ 33 (0) 1 43 23 06 38
		Aleth Degrand	+ 33 (0) 1 43 23 23 81
		Marie-Agnès Huguenin	+ 33 (0) 1 43 23 15 99
		Laurence Gascon	+ 33 (0) 1 57 72 38 63
		Aurélien Marboeuf	+ 33 (0) 1 57 72 38 05